

■ 成果指標・重要業績評価指標 (KPI)

基本目標 幸せを感じる暮らしをつくる

成果指標・KPI	基準値 (H27策定時)		目標値を設定した根拠(策定時)	備考(策定時) ・独自集計の積算根拠式 ・アンケートの場合の具体的方法
	値	時点 (年度)		
「幸せな暮らしと感じる人」の割合	—	—	H26年度に企画課で行った町民アンケートの中で、「幸せな時間や場所、場面はありますか」という問いに対する回答の%を参考に設定した。	
人口の社会動態(転入者と転出者の差)	▲24人	H26	人口ビジョンで計画しているH32の益子町の人口23,024人を達成させるためには、過去5年の転入・転出者数の経過から、H32はその差が0でないで達成できないため。	
年間出生数	164人	H26	人口ビジョンでは、H28からH32で905人の出生を計画しているため、人口ビジョンとの整合性を図り施策を行うことで徐々に出生数が増加することを目標としている。	
里山整備実施箇所数(累計)	24箇所	H26	とちぎの元気な森づくり里山林整備事業を活用した整備箇所を毎年3箇所程度、新規整備を行う見込みであることから設定した。	とちぎの元気な里山林整備事業による実績値
エネルギー自給率	3.5% (H25:2013)	H26	千葉大学の研究によると、H27の太陽光発電施設の導入状況がH26よりも2.1倍となるため、H27には9%に達することが予想される。さらに、大規模メガソーラーや小規模メガソーラーの導入が進んでいることから推計すると、H32には25～30%に達する見込みであることから設定。	
1人1日あたりの家庭系ごみ排出量(町資源化分を除く)	428g	H26	ごみ排出量については、年々減少させていくことが理想的であるが、まずは現状の5割減(半減)を目標とすることで、町民にもわかりやすい数値で、1人ひとりが目標達成に向けて取り組んでもらいたい意図がある。	
ごみの分別リサイクル率	26.0%	H26	リサイクル率を現状よりも倍増を目標とすることで、町民にもわかりやすい数値であるとともに、排出量を半減させると同時にリサイクルに取り組んでもらいたい意図がある。	
【～H30】健康指標全国順位 【R1～】健康寿命の推定値	35位	H24	健康・長寿ましこをめざし、町民一人ひとりが健康づくりに取り組むことで、町全体が健康なまちにつながるよう、企業で開発した「健康なまち全国順位」を指標とした。目指すべき目標順位を1位という高く掲げることで、健康づくりへの意識の高揚を図ろうという意図がある。	国民健康保険被保険者1人あたりの診療費
18歳以上の運動習慣者の割合	—	—	健康づくりの一環である運動づくりを推進するにあたり、具体的な指標とした。健康づくりに関する国や県の計画や調査との比較ができるようにし、前年度より増加するように設定した。	
メタボリックシンドローム該当者の割合	15.3%	H26	生活習慣病の発症、重症化予防のために、毎年実施している健康診査の結果、特定保健指導の必要となるメタボリックシンドローム該当者・予備軍者が減少することを指標にした。H24～26の割合が横ばい状況であるため、1%減少となるように数値を設定した。	
メタボリックシンドローム予備軍の割合	11.2%	H26		
介護予防教室及び高齢者サロンの参加者実人数	208人	H26	高齢者サロンについては、毎年1ヶ所ずつの増設を予定しており、各15名程度で計画している。介護予防教室については、お亡くなりになられる方がいることを考慮し、現状を維持していくことを目標としている。	
刑法犯発生件数	95件	H26	刑法犯及び交通事故発生件数を指標とすることで、犯罪、交通事故がないことが益子に住みたい価値を高めると考え、指標を設定した。数値については、犯罪や交通事故をなくすことを目指し、毎年約1割減、H32には約5割減とすることにより、町民にもわかりやすい数値で目標達成に努めてもらいたい意図がある。	
交通事故発生件数(人身)	27件	H26		

■ 成果指標・重要業績評価指標（KPI）

基本目標 風土に根ざした産業をつくる

成果指標・KPI	基準値（現状値）		目標値を設定した根拠（策定時）	備考（策定時） ・独自集計の積算根拠式 ・アンケートの場合の具体的方法
	値	時点 （年度）		
町内総生産	522億円	H24	毎年10億～15億ずつ伸びると見込む。目標値は基準値の2割増を目指す。	
新規就農者数（H26からの累計）	3人	H26	毎年3人ずつ伸びると見込む。目標値は毎年3人増しの累計を設定。	
担い手集積率	33.6%	H26	毎年1%ずつ伸びると見込む。目標値は基準値の2割増を目指す。	
道の駅来場者数	-	-	道の駅担当と協議	
起業支援補助金利用件数（H26からの累計）	3件	H26	毎年3件ずつ伸びると見込む。目標値は毎年3件増しの累計を設定。	
空き店舗利用件数（累計）	-	-	毎年1件ずつ伸びると見込む。目標値は毎年1件増しの累計を設定。	
ブランド商品認定数（累計）	-	-	初年度10件、2年目以降1から2件伸びると見込む。	
益子焼総販売額	32億円	H25	毎年10億～15億ずつ伸びると見込む。目標値は基準値の9割増を目指す。	
有効求人倍率	0.44	H26	毎年10%ずつ伸びると見込む。目標値は1.0を目指す。	
観光客入込数	185万人	H26	道の駅オープンにより35万人の増を見込み、オープン以降は毎年10万人ずつ伸びると見込む。目標値は基準値の2割増を目指す。	
観光客宿泊者数	17,229人	H26	毎年2,000人ずつ伸びると見込む。目標値は基準値の8割増を目指す。	
外国人観光客宿泊者数	338人	H26	毎年50人から100人ずつ伸びると見込む。目標値は基準値の倍増以上を目指す。	

■ 成果指標・重要業績評価指標（KPI）

基本目標 社会的に自立した人を育てる

成果指標・KPI	基準値（現状値）		目標値を設定した根拠（策定時）	備考（策定時） ・独自集計の積算根拠式 ・アンケートの場合の具体的方法
	値	時点 （年度）		
「子育て・教育をしてよかったと思う人」の割合	—	—	平成26年度では基準値がないため前年度増加を目指す。	中学校卒業する生徒の保護者にアンケート実施
「地域・社会活動をする人」の割合	56.4%	H26	平成27～28年度は計画開始間もないため緩やかに1%程度伸び、その後は2%程度伸びると見込む。	「地域活動に参加しているか、参加しようと思うか」アンケート実施
小・中学生の1年間皆勤率	48.8%	H26	平成26年度は、半数程度の児童生徒が1年間皆勤していた。その割合を1%(20人)程度、毎年度伸ばしていくことを目標とした。	各小・中学校に皆勤率調査
「子育て支援教室に参加し満足した人」の割合	—	—	平成26年度では基準値がないため前年度増加を目指す。	子育て支援教室参加者に満足度調査
全国学力テスト全国順位(中学3年時)	5位以内	H26	平成26年度中学3年生の学力テストの結果が例年に比べても良く、全国順位4位と5位の中間相当に位置するため、その順位を保つことを目標とした。	全国学力テスト結果による比較
中学校における英検3級取得率	14.5%	H26	国の教育振興基本計画の目標値は50%だが、都市部との格差を考慮30%とした。徐々に伸びていくような数値設定した。	各中学校へ調査
東京オリンピック出場選手数	—	—	2020(平成32年)年は東京オリンピック開催年のため、町から1人以上輩出を目標とした。	
小学生のスポーツクラブ参加率	—	—	平成26年度では基準値がないため前年度増加を目指す。	各小学校へ調査
小・中学生の新体力テストA級以上取得者の割合	11.0%	H26	平成27～28年度を準備期間とし、その後1%程度伸びることを見込む。	各小・中学校報告データより調査
町民学士認定者数	129人	H26	町民大学募集定員の8割を町民学士に認定することを目指し年々増加を見込む。	町民大学受講後に町民学士に認定された人の数
ましこ検定の合格者数	—	—	平成26年度では基準値がないため前年度増加を目指す。	ましこ検定を受験し、合格した人の数
遊びの達人の登録者数	—	—	平成26年度では基準値がないため前年度増加を目指す。	遊びの達人の登録者数

■ 成果指標・重要業績評価指標（KPI）

基本目標 地域資産を蓄積する

成果指標・KPI	基準値（現状値）		目標値を設定した根拠（策定時）	備考（策定時） ・独自集計の積算根拠式 ・アンケートの場合の具体的方法
	値	時点 （年度）		
日本遺産登録	—	—	2020年オリンピック前に日本遺産登録を目指す。	
ましこ検定の受検者数	—	—	3地区で30名ずつで、毎年100名の受検者数を目指す。	ましこ検定を受験した人数
ましこ世間遺産認定数（累計）	—	—	71自治会の80%の認定を目指す。	ましこ世間遺産の認定した件数
ランドスケープデザインの作成	—	—	H28～30は準備調査期間とし、H31の作成を目指す。	
「地域への愛着や誇りを感じる人」の割合	74.1%	H26	毎年1%ずつ増えることを目指す。	
地域ブランド調査魅力度市区町村ランキング	475位	H26	毎年約50位ずつ順位を上げ、200位以内を目指す。宇都宮市168位、那須塩原市136位、日光市13位	㈱ブランド総合研究所の調査によるランキング

基本目標 健全な経営体を持続する

成果指標・KPI	基準値（現状値）		目標値を設定した根拠（策定時）	備考（策定時） ・独自集計の積算根拠式 ・アンケートの場合の具体的方法
	値	時点 （年度）		
プライマリーバランス	5億400万円 黒字	H26	借金に頼らない経営を行っていることを示すため、プライマリーバランスの黒字と設定した。	考え方を図示
ふるさと納税額	161万円	H26	人口推移を考慮した個人町民税の減収見込額、約1億円とした。	
財産収入	831万円	H26	町有地の貸付や売却による収入増を図り、1,000万円とした。	
町税徴収率	87.95%	H26	数字目標とすると100%とするしかない（未納を認めることとなるので）が、現実的な数字でないため前年度増とした。	
町債額	70億3,555万円	H26	平成32年度における公債費を7億円以内とできる額。（平成27年度は、公債費6億6千万円）	
指定管理者が運営する施設数	3施設	H26	現在の3施設、28年度に道の駅1施設、平成32年度までにさらに1施設。	
「職員に対する住民満足度」の割合	—	—	「幸せな暮らしを感じる人」の割合と同値とした。	
町民団体や社会的企業などの設立数	—	—	人口減少が進むなか、全ての社会的課題を役場で解決できなくなると考えらることから、公共サービスの新しい担い手を育成し、後々の指針とするため1団体とした。	
地域創生活動コンテストへの参加団体数	—	—	旧小学校区に一つとして設定。	旧小学校区に合わせた地域数